

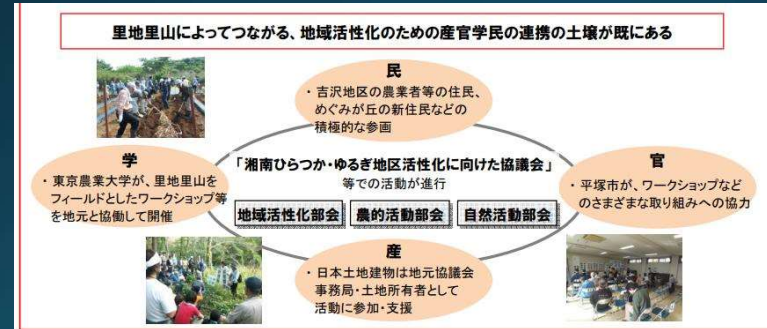
「産・官・学・民」連携による「自然共生サイト」の取組



東京農業大学地域創成科学科 町田 怜子
資料の一部は株式会社環境計画が作成

「生物多様性豊かな“湘南平塚ゆるぎ 里地里山”（神奈川県平塚市）」 自然共生サイト認定（2024年3月18日）

- 10年以上にわたって産官学民のセクターが参画する「四者連携」で運営され、加えて民間デベロッパーが「開発から保全型の里山管理」へと方針転換できた数少ない事例



湘南ひらつか・ゆるぎ地区』の活性化の実現に向けて 報告書（2010より）

対象地域 平塚市 吉沢地区



神奈川県平塚市 西部丘陵地域 23.46ha



■：対象サイト
 ■■■■■：価値(3)(4)(6)に関連する「平塚市自然環境評価書」（2022年3月 平塚市）の調査エリア「上吉沢地区」の範囲

地籍測量未終了のため公図を基に区域境界線を図示
 空中写真：地理院地図（国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/>）

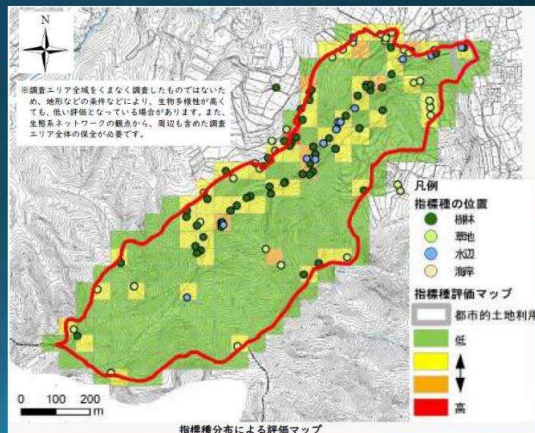
対象サイトの範囲

6

「中央日本土地建物」
の所有地



「平塚市自然環境評価書」平塚市 2022
調査エリア“上吉沢地区”の範囲

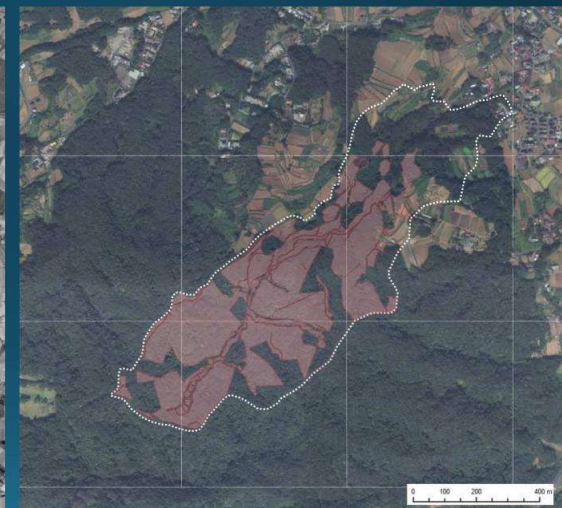


土地利用の変遷

7



1961~1969年



2019年

出典：地理院地図（国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/>）

9



10



これまでの取組み経緯

産官学民の四者連携で特筆すべきこと 地域の計画コンセプトの構築

1960年代まで コナラ、クヌギなど広葉樹の薪炭林や棚田として利用
 薪炭の需要減や農業者の高齢化により耕作放棄地が増加
 1967年～ 中央日本土地建物グループが開発を目的に土地購入
 2015年～ 開発取り止め

「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」の活動をサポート

ワークショップの開催 散策路の整備・景観づくり
 菜の花畑生育 湿地復元によるトンボの里整備 など

1. 魅力ある拠点形成
2. 里地里山を守り育てよう
3. 定住人口を確保しよう
4. 交流人口を増やそう
5. 農業の活性化に向けた新たな取り組みを進めよう
6. 交通の利便性を高めよう
7. 体系的な道路網の整備を推進しよう
8. 防犯や交通安全を心掛けよう
9. クリーンアップ活動を心掛けよう



『吉沢地区のまちづくり計画の計画について』より

一般市民も参画
 するワーク
 ショップを開催

四者連携の協議
 会で合意形成を
 重ね、地域づく
 りの目標像を
 共有化



第40回ワークショップの様子

湿地復元によるトンボの里の整備

2023年6月開催
 地域内外の方々、協議会、東京農業大学・東海大学の関係者や学生、
 平塚市、中央日本土地建物グループの社員併せて67名が参加



トンボの里の視察



散策路等の整備活動



モニタリング (2019～) パンフレット作成



生物多様性の価値

15

価値 (3) 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

かつて新炭林として利用されていた里山林が広がり、丘陵地の里山林ならではの動植物の生息・生育が確認されている。また、谷部の沢では丘陵地の沢の流れを生息の場とする特徴的な生物が生息している。

【主な植生】

コナラ、クヌギ等からなる落葉広葉樹林

【確認された主な動植物など】

植物	クサボケ ワレモコウ ツリガネニンジン ノアザミ	<i>Chaenomeles japonica</i> <i>Sanguisorba officinalis</i> <i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i> <i>Cirsium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>
昆虫	カンタン オオミドリシジミ ウラナミアカシジミ	<i>Oecanthus longicauda</i> <i>Favonius orientalis</i> <i>Japonica saepestriata saepestriata</i>
鳥類	コゲラ ヤマガラ ウグイス	<i>Dendrocopos kizuki</i> <i>Poecile varius</i> <i>Cettia diphone</i>
水生生物	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>



写真の説明：サイト内の森林で確認されたヤマガラ



写真の説明：トンボの里脇の沢で確認されたサワガニ

生物多様性の価値

16

価値 (4) 生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

対象サイトやその周辺の丘陵地に広がる樹林環境は、農業用水をはじめとする地域の水源を涵養するとともに、丘陵地の樹林や林縁の草地、谷部の流れならではの在来の動植物が生息・生育し、サイト内を通る遊歩道によって、ハイキングや自然観察・体験、癒しの場として地域や一般市民に利用されている。

【主な植生】

コナラ、クヌギ等からなる落葉広葉樹林、林縁の草地、谷部のスギ植林と渓畔環境

【確認された主な動植物など】

植物	シュンラン キチジョウソウ キツリフネ	<i>Cymbidium goeringii</i> <i>Reineckea carnea</i> <i>Impatiens noli-tangere</i>
昆虫	ゴマダラチョウ タマムシ ヒガシキリギリス	<i>Hestina persimilis japonica</i> <i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i> <i>Gampsocleis mikado</i>
鳥類	ホトトギス カワセミ アカゲラ	<i>Cuculus poliocephalus</i> <i>Alcedo atthis</i> <i>Dendrocopos major</i>
水生生物	アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i>



写真の説明：サイト内谷部の流れと遊歩道



写真の説明：サイト内林縁で確認されたヒガシキリギリス

生物多様性の価値

17

価値 (6) 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

「平塚市自然環境評価書」

神奈川県RDBに掲載されている種

- ・昆虫類2種
- ・両生類1種
- ・爬虫類2種
- ・鳥類2種

「『トンボの里』ほか トンボ類等経年モニタリング調査」

環境省レッドリストあるいは神奈川県RDBに掲載されている種

- ・昆虫類3種
- ・両生類1種
- ・水生生物1種

生物多様性の価値

18

価値 (8) 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

対象サイトの谷部を流れる樹林内の沢は様々な流水性トンボ類の幼虫・成虫が見られ、また、谷部のかつて水田だった場所に池を創出した「トンボの里」では、様々な止水性トンボ類の幼虫・成虫が生息しており、それら多様なトンボ類の繁殖の場として平塚市内でも重要な環境である。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

○対象となる動物種

流水性トンボ類		
ハグロトンボ	(成虫)	<i>Atrocalopteryx atrata</i>
オジロサナエ	(幼虫)	<i>Stylogomphus suzukii</i>
コヤマトンボ	(幼虫)	<i>Macromia amphigena amphigena</i> など

止水性トンボ類

ホソミイトンボ	(成虫)	<i>Aciagrion migratum</i>
クロスジギンヤンマ	(幼虫・成虫)	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>
ヤブヤンマ	(幼虫)	<i>Polycanthagyna melanictera</i>
オオシオカラトンボ	(幼虫・成虫)	<i>Orthetrum melania</i> など

○動物が利用している生活史
繁殖



写真の説明：「トンボの里」と創出したトンボ池



写真の説明：トンボの里の池で確認されたヤブヤンマ幼虫

特徴・課題	場所	管理（活動）計画	モニタリング計画
多様なトンボ類の生息を目指して整備した『トンボの里』 トンボ池や周辺に止水性/流水性の様々なトンボが生息	トンボの里	草刈り トンボ池の泥さらい 木道修繕 防護ネット点検・修繕	水生生物・トンボ調査
里地里山環境の荒廃 人の手が入らなくなったことによる各種課題 ・散策路周りの景観悪化 ・獣害拡大 ・ナラ枯れ被害拡大 気候変動の影響 ・風倒木被害の増加 ・斜面崩壊等の増加	散策路周辺	下草刈り 散策路修繕・整備 枯損木・倒木点検	林縁・林床植物調査

自然共生サイトとしての取組みプロセス

多様なトンボ類の生息を目指して整備した『トンボの里』



里地里山活用の事例から考える産官学民「四者連携」による意義

「産」からの意義

事業転換が難しい社有地の里地里山に四者連携を通じて社会的価値を見出し、サステナブルな社会貢献へと導く仕組みを地域社会と共に構築。

「学」からの意義

フィールドでの実践的な教育研究の場、さらには里山活動を通じて、地域再生・活性化を担う人材育成、教育・研究の地域への還元の場。

「官」からの意義

四者連携により新しい里山の展望が見いだされ、ワークショップにより市民参加型のまちづくり活動が実践されている。市民参加型の憩いの場を創出。

「民」からの意義

市民との交流やトンボ池の再生など、地域のアイデンティを確立。

産官学民「四者連携」による里地里山活用の事例から考えるネイチャーポジティブ

- 四者連携により大学生や企業経営者などによる、多様な主体の地域資源管理の輪が広がった。
- 今後の課題としては、さらに、自然共生サイトの認定をきっかけに、里地・里山や生物多様性の保全と地域活性化を目指すネイチャーポジティブの加速化と地域に定住人口やマネーフローを呼び込みつつ、住んで良し訪れて良しの持続可能な地域づくりを実現することが挙げられる。